

JA板野郡



自己改革に向けた取り組み

～選ばれるJAを目指して～



平成30年度 重点取組

1. 農業者の所得増大・農業生産の拡大
2. 地域の活性化

平成28年4月1日に改正農協法が施行され、「農業所得の増大に最大限の配慮をしなければならない」ことや、その附則には「准組合員の事業利用規制のあり方について平成33年3月までに結論を得る」ことが明記されたことにより、全国のJAがこれらを踏まえて改革に取り組んでいます。

JA板野郡では、平成28年度に中期3か年計画を策定し、自己改革に取り組んで参りましたが、今以上に改革のスピードを速め、組合員や地域に必要とされるJAとなれるよう一丸となって取り組みを進めます。

基本目標	H28～H30 中期計画の具体的な取り組み	30年度目標	取り組み経過とその成果
農業者の所得増大・農業生産の拡大	農作業の受託事業（アグリサポート）を拡大させて、農業生産の拡大を図ります。（子会社）	受託面積 116ha以上	ブロッコリーの生産拡大に伴い、畝立て及び定植作業受託が大きく伸びることができました。30年度の受託面積は122.3haの予定です。
	農業者へ産直部会への入会を進め、地産地消の拡大と有利販売による農業者の所得向上を目指します。	産直会員 500名 売上高 430百万円	JAグリーンアグリいたの・JAグリーンとなりマルシェともに産直会員の勧誘を行いました。目標会員数、目標売上高ともに達成できませんでした。30年12月末会員数391名、30年度売上見込額2億4,800百万円の予定です。
	JA板野郡の重点品目（人参・レタス・ブロッコリー・カリフラワー・加工キャベツ・キュウリ・枝豆）の生産拡大に取り組めます。	延べ面積 1,060a	ブロッコリー、キュウリは生産面積が拡大しましたが、人参は現状維持、その他の品目は農業者の離農、経営規模縮小によって減少しました。
	農家が生産した玄米を有利販売で買取り、農業者の所得増大に努めます。	集荷数量 70,000袋	米の小売販売で得た手数料を玄米の買取価格に上乘せして、徳島県内でも高位価格で設定し、集荷数量を増やすことが出来ました。30年産は76,397袋集荷しました。 ライスセンター利用農家が将来にわたり安心して水稻の乾燥調製をJAに委託できるよう、また管内産米の品質の向上を目指して、吹田ライスセンターの機能拡充構想案を作成し、説明会を開催し利用者の皆さまに説明しました。本年度内に改修を行い、平成31年度より新たなライスセンターで操業を行います。
	購買品の仕入れに競争入札を取り入れ、原価を下げることで安く供給します。	農業、被覆資材、種子を対象	29年度より農業の競争入札を実施して供給価格の引き下げにつなげました。30年度の入札品目数は37品目です。また、全農が主体となって肥料（オール16）を全国で取りまとめ入札によって供給価格を引き下げました。被覆資材及び種子については、競争できる品目が一部に限られており実施できませんでした。
	JA板野郡オリジナル商品を開発し、数量を取りまとめ、一括購入によって原価を引き下げ安く供給します。	オリジナル商品完成	水稻用の土壌改良材入り一発肥料「稲ひろし」を開発して、同等肥料に比べ割安価格で供給しました。平成30年度は860袋の注文を頂きました。
	肥料メーカーの閑散期（暇な時）に大量発注することで、メーカーのメリットを商品に転嫁し安く供給します。	予約取りまとめと供給の実施	通常は9月に製造及び農家へ供給する人参用配合肥料及びレタス配合肥料を、7月に取りまとめ発注し、8月に早期予約値引きして供給しました。
	青果物の荷受けをタブレット端末で行う荷受けシステムを導入して一元販売品目を拡大し有利販売に努めます。	システム整備の完了	徳島県未来創造事業及び担い手サポート事業の補助を受け、荷受けシステムを整備しました。今後は一元販売の実施に向けて各部会と協議して参ります。

	生産農家への訪問活動を活発に行い、JA への要望を聞き取り JA 事業に反映させます。	渉外体制の整備	渉外担当者は集荷場の業務と兼務体制となり、十分な訪問活動は行えませんでした。業務の効率化を図り、渉外活動に要する時間の確保に努めます。
	農業の近代化や規模拡大を目指す農業者に向けて担い手金融資金の提案を積極的に行います。	担い手金融資金の拡大	融資担当者と経済担当者が同行して担い手農家への融資の提案を実施して参りました。平成 30 年度の農業融資の実行額は 2 億 6,000 万円の予定です。
基本目標	具体的な取り組み	30 年度目標	取り組み経過とその成果
地域の活性化	JA グリーン店舗の営農相談窓口は、農業者からの質問にいつでも応えられる体制を作ります。	相談窓口体制の整備	JAグリーン営農相談担当者や営農指導員によって、毎日営農相談の対応をしました。
	支店運営委員会を開催して、支店利用者のご意見を幅広く聞き取り、JA 運営に反映させます。	支店運営委員会の開催	平成 28 年度から支店運営委員会を支店ごとに開催し、委員の皆さまより幅広いご意見を頂きました。ご意見によって駐輪場やスロープを設置しました。
	地域の学生や児童を対象とした食農教育や農業体験を積極的に行い、若い世代に食の大切さや農業の楽しさを伝えて参ります。	農業体験会の開催	管内の小学生を対象に、トウモロコシの収穫体験、人参の収穫体験を実施して、収穫の楽しさ、食材としてのおいしさを体験してもらいました。また、管内の小学校を対象に田植え体験、稲刈り体験を実施しました。
	JA をより身近に感じてもらえるように、年金や住宅ローンなど JA をご利用頂いている方に参加して頂く催しなどを開催します。	催しの開催	年金受給者を対象にカラオケ大会を開催しました。また、組合員・地域の利用者を対象に年金相談会や住宅ローン相談会、相続相談会を開催しました。
	JA 板野郡管内で収穫された農畜産物を地域の方にもっと知ってもらうように、産直店舗の PR と兼ねて催しを開催します。	催しの開催	平成 29 年度より、フードフェスティバルを開催して、産直野菜の PR と併せて、管内産の野菜や精肉の販売を行い大勢の皆さまにご来場いただきました。
	支店では、季節に応じた飾り付けを行うなど、来店者の皆さまに時折折りの雰囲気を楽しんでもらえるように工夫いたします。	店舗ディスプレイの実施	支店にご来店いただいた利用者の皆さまに、七夕やハロウィン、クリスマスなど日本の行事に合わせた雰囲気を感じてもらえるように、店舗のディスプレイを行いました。
A T M を旧支所単位に設置して、金融サービスをご利用いただける体制を整備します。また、事務インストラクターを配置して、職員の接客対応の向上を図ります。	A T M の整備・インストラクターによる職員教育	店舗内 A T M を 5 カ所、店舗外 A T M を 11 カ所設置して、利用者の皆さまには出来る限り近くで金融サービスを提供できる体制にしました。事務インストラクターを配置して職員の接客教育を行いました。これからも職員のおもてなし力の向上に努めます。	



アグリサポート農業研修
(ミニトマト収穫体験)



人参収穫体験&料理教室



フードフェスティバル

